

2023年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ アイヌ・先住民学 ）
出題の意図	<p>アイヌ・先住民学では、ひとつの学問領域にとどまらない学際的研究が求められる。本問題は、アイヌ・先住民学講座での研究に必要な基礎知識について問うとともに、専門分野に関する知識やその説明力について、学部レベルでの達成度を確認するものである。</p> <p>①は必答問題として、アイヌ・先住民に関する政治的および法的状況についての基礎知識を問うものである。</p> <p>②～④は1問を選択するもので、②はアイヌ・先住民に関する博物館学、観光学などの諸領域について、どの程度の知識を有しているか、③はアイヌ・先住民研究に関する先史時代の動物儀礼について、また資料解釈の視点について、基礎知識を有しているか、④は言語学またはアイヌ語について、基礎知識を有しているかを確認するものである。</p>

2023年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） アイヌ・先住民学 全2枚のうち1枚目。

この試験では、試験問題 2枚、解答用紙 4枚を配付する。

以下の①（必答問題）と、②、③、④（選択問題）から選択した1問の計2問に解答しなさい。必答問題と選択問題の解答は、別の解答用紙に記入し、それぞれの解答の冒頭に、解答する問題番号を明記すること。

①（必答問題） 以下の(1)と(2)のすべてに解答しなさい。

(1) 現在、アイヌ民族の人口については、地方公共団体である北海道が実施している「北海道アイヌ生活実態調査」の回答者数が参照されるにとどまる。アイヌ民族の人口を把握することの難しさについて、簡単に説明しなさい。

(2) 萱野茂氏がどのような人物であったのか、簡単に説明しなさい。

②（選択問題）

今日、先住民族が観光に深く関わる事例が世界各地に認められる。その意義や課題について具体例を一つ以上挙げながら説明しなさい。

③（選択問題）

遺跡や遺構から出土した動物遺存体が、過去の個人や集団による「儀礼行為」の結果であると考古学的に判断するために必要となる状況証拠について、「考古学的コンテキスト」に基づいて説明しなさい。

〔4〕（選択問題）

ある言語の日本語対訳つき記録資料を整理して形容詞に近いものの語彙リストを作成したところ、以下のような結果が得られたとする。左側のローマ字はその言語、右側「」内はそれに概ね対応する、対訳中で用いられていた日本語であるとする。

pon 「小さい」
poro 「大きい」
ponko 「大きい」
wen 「悪い」
pirka 「良い」
wenko 「良い」
tuyma 「遠い」
hankeko 「遠い」
hanke 「近い」
tuymako 「近い」

この言語のさらなる3語、nupur「強い」 setak「すぐ、ほんの短時間の」 isayka「簡単な」について、nupurko, setakko, isaykako という語形があると予想できるか。理由とともに答えよ。